

Since 1948

From now on



昭和23年度～昭和44年度
9つのマで「クマ」と「下水」の図案

昭和45年度～昭和58年度
熊本市の記章(「く」の字の図案化)を中心に

昭和58年度～昭和59年度
滑り防止の亀甲模様

昭和60年度～平成20年度
肥後六花のひとつ肥後梅

平成元年 市制100周年記念
銀杏通り限定で設置 ※現在は撤去

昭和63年度～平成2年度
北部町の特産品「すいか」

平成5年度～平成21年度
城南町町花の菊と塚原古墳群

平成11年度～平成20年度
富合町の記章(「と」の字を中心に)

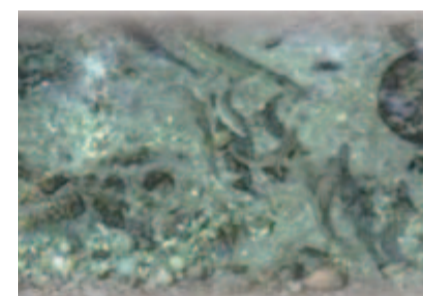
平成17年度～平成21年度
植木町町鳥のホオジロと町花のスイセン

平成21年度～現在
滑り防止のためスライク模様

「甦る水100選」選定記念モノコメント(江津湖)



藻器堀川では
鮎が戻ってきました



海、川、湖を守る

甦る水100選

昭和40年代から急速な都市化が進んだことから、江津湖に流れ込む藻器堀川(しょうけぼりがわ)や健軍川などの水質が生活排水のために悪くなり、江津湖の水に棲む動植物への影響を多くの市民が心配しました。

そこで、江津湖に流れ込む川の周辺地域で下水道を重点的に整備し、あわせて市民の皆さんと一緒に江津湖の美化を行う『甦れ江津湖、下水道クリーン作戦』に取り組みました。その結果、水質が大幅に改善され、平成6年には藻器堀川には鮎が戻ってきました。

この取り組みは、下水道が水環境の保全回復に果たしている役割として、特に優れたものとして、平成12年に建設大臣(当時)から『甦る水100選』に選ばれました。



下水道は、私たちの生活で使われた水をキレイにして自然に還すことで、海や川や湖などの水質と豊かな自然環境を守っています。

熊本の水を守る

下水道

下水道を大切に

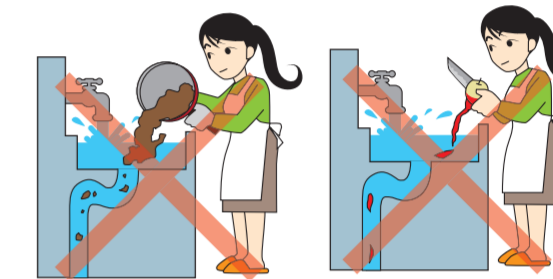
給排水設備課
☎096-381-1153

てんぷら油や生ごみをそのまま流さないで!

料理で使った油や生ゴミを台所から流すと下水道管内で油が固まり汚水がスムーズに流れなくなります。悪臭や詰まりの原因となりますので、流さないでください。

【ご家庭の廃油処理】

洗う前に、キッチンペーパーなどで食べ残しや油汚れをふき取ってから洗うようにしてください。てんぷら油などは、市販の凝固剤で固めるか不要布にしみこませて燃やすゴミとして出すか、資源物の拠点回収をご利用ください。



分流式下水道に雨水は絶対に流さないで!

分流式(※)の下水道へ流せるのは、汚水(風呂・台所・トイレ等)のみです。雨水を接続されず、浄化センターの処理機能がマヒし、汚水が路上にあふれたり、各家庭へ逆流したりする恐れがありますので絶対に流さないでください。



※本市の分流式下水道は、汚水と雨水のうち、家庭や事業所から出る汚水(雑排水)を管渠で浄化センターへ運び処理する方式で、中央区・東区の一部合流式区域を除く区域で採用しています

下水道が秘める
さまざまな資源

下水道の底力



再生水の利用

浄化センターでキレイになった水(再生水)は、都市の貴重な水資源として注目されています。熊本でも、農業用水としての利用や市電の緑のじゅうたんの水やり、浄化センター内の洗浄用水などに使用されています。

汚泥100%リサイクル

熊本市では、水をキレイにするときに発生する汚泥(沈殿した汚れを集めたもの)を、セメントや肥料(コンポスト)の原料にしたり、固形燃料に加工して石炭の代替燃料として火力発電所に供給したりし、100%リサイクルしています。



消化ガス発電

汚泥を分解するときに、メタンなどを含んだガス(消化ガス)が発生します。熊本では、温室効果ガス削減を目指し、この消化ガスを利用した発電事業に取り組んでいます。



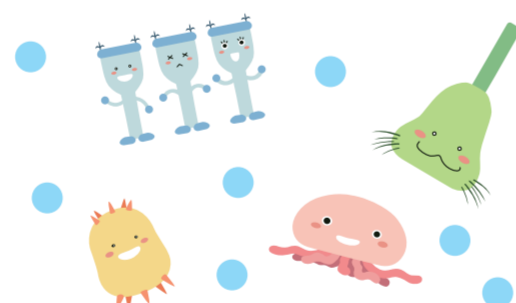
熊本市下水道の基礎データ

(平成27年3月末現在)

処理区域内人口 645,030人

普及率 87.9%

総処理水量 87,979,193m³/年 (25mプール約16万3000杯)



微生物たちが大活躍

水をどんな方法でキレイにしていると思いますか?薬品?怪しげな装置?実は最も活躍しているのが『微生物の力』です。

活性汚泥(細菌、原生動物、多細胞生物の後生生物、菌類が集まってできたもの)と汚水を混ぜて空気を送り、水に溶けている栄養分(有機物)を微生物たちに食べさせます。

おなかいっぱいになった微生物は汚れと一緒に沈んでしまい、キレイな上澄み水だけを消毒・滅菌処理し、川や海に流しています。

浄化センター

水再生課
☎096-381-6340



24時間動き続ける浄化センター

熊本市内で排出された汚水は、市が管理する中部・東部・南部・西部・城南町の5ヶ所の浄化センターと、県が管理する熊本北部浄化センター、宇土市が管理する宇土終末処理場に運ばれます。

各浄化センター・終末処理場では、運ばれてきた汚水をキレイにし消毒・滅菌して海や川にかえす水処理と、その処理過程で取り除かれた汚泥を貴重な資源として100%リサイクルする汚泥処理を、昼夜を問わず24時間休みなく行っています。

管きょ・ポンプ

下水管清掃の
バキュームカー



詰まりは大敵

下水道の管きょ(地下水路)は、家庭や工場から排出される汚水を処理場まで運ぶ重要な役割を担っています。さながら静脈のように都市に張り巡らされていて、その長さはなんと2,545km(平成27年3月末現在)!

下水管きょにごみや土砂がたまり、水の流れを妨げたり、管を傷めたりし、その役割を果たせなくなります。そのため、上下水道局では、定期的な下水管きょの点検・清掃・修理を行っています。また、管きょ途中にあるポンプ場にも故障やトラブルが起きないよう、巡回・整備を実施しています。異常が発生した場合には、**上部のランプが点灯**します。ランプの点灯を見かけたら、フリーダイヤルへご連絡ください(☎0120-49-1592)。



下水管きょの清掃の様子



ポンプ場点検の様子